

TWO YEARS AFTER THE GREAT HANSHIN EARTHQUAKE

many cats still have nowhere to live. Near Shin-Nagata station in Kobe there is a place which was burnt to the ground in the quake.

Here about a dozen cats gather together everyday.

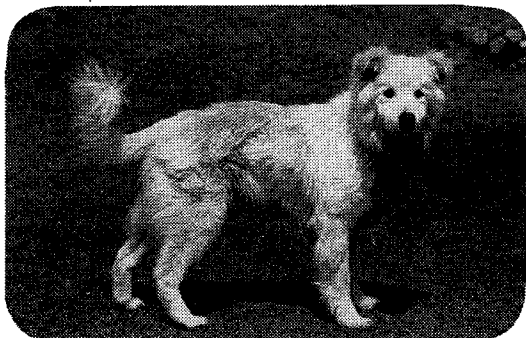
For what? Well nothing very special but it's better than being alone.

阪神大震災から2年が過ぎました。住むところがないねこたちが、いまだに大勢います。神戸市の新長田駅近く、震災後の火災で焼け野原になった場所には、毎日決まって十数匹のねこたちが集まっています。「どうしてって？別にこれといった理由もないけど、独りぼっちでいるよりはいいでしょ。」



Sunning club
of Nagata-ku
6 Feb.'97 Isshu

sketch by Isshu Fujiwara



Takatori, the old, blind and semi-deaf dog, named after the station in Kobe where he was found following the Earthquake, passed peacefully away on February 8th.

Mrs. Watatani who adopted him gave him a wonderful loving home for his last years.

タカトリは震災のあと、神戸市長田区のJR鷹取駅付近で保護されて、そのまま駅の名が付けられました。老齢で、目も耳も不自由でしたが、奈良県の綿谷 ミヤさんが里親になってくださり、先日2月8日に安らかに永眠するまで、その余生をすばらしい愛情に満ちた家庭で過ごすことができました。綿谷さんの温かい善意とご献身に、心からお礼申し上げます。

こんな動物たちの体験をもとに、アークメンバーであるフリーランス・ジャーナリストの香取 章子さんが1冊の物語を書き下ろされました。

アークを始め、被災動物の1年半にわたる現状取材をベースに完成された「猫のたま吉物語 - ぼくは大地震にあった」は、神戸で震災に遭ったねこのたま吉を主人公に、動物達の目から見た大震災の体験を語るというもので、現実起こったエピソードをモチーフとして、ユーモア溢れるハラハラドキドキのストーリー展開となっています。

人間生活にさまざまな影響と被害をもたらした大震災。しかしそのまったく同じことが動物たちにも起こっていた。一生懸命に生きているのは人間だけじゃないこと、命の価値は生きるものすべてに等しくあること... そんなあたりまえのことを、このストーリーは私たちに思い出させてくれます。

被災動物を知る1冊として、また震災を知る1冊として、大人から子供まで幅広い方々に読んでいただきたい物語です。

香取章子
猫のたま吉物語
ぼくは大地震にあった



ねこたちもがんばって / 阪神大震災の被災動物と、主として被災動物の物語

ぼくは恋猫や
飼い主と離れ離れになっちゃった...

双葉社出版

(双葉社 定価 1300円 4-575-23285-8)

冬のコートをたくさん送ってくださったみなさんへ
みなさんのおかげでみんな暖かい冬をすごしています。
雪の日でもお散歩ができるのでうれしいです。どうもありがとうございました。

アークの犬たち一同より